

令和元年度 全国学力・学習状況調査の結果

<国語>

分類	区分	対象問題数 (問)	平均正答率(%)		
			本校	神奈川県 (公立)	全国 (公立)
全体		14	59	61	63.8
学習指導要領の領域等	話すこと・聞くこと	3	67.7	69.1	72.3
	書くこと	3	50.2	52.7	54.5
	読むこと	3	82.5	80.3	81.7
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	5	44.4	49.2	53.5
評価の観点	国語への関心・意欲・態度	3	56.5	54.0	57.6
	話す・聞く能力	3	67.7	69.1	72.3
	書く能力	3	50.2	52.7	54.5
	読む能力	3	82.5	80.3	81.7
	言語についての知識・理解・技能	5	44.4	49.2	53.5
問題形式	選択式	7	71.3	73.4	75.1
	短答式	4	38.7	44.0	48.7
	記述式	3	56.5	54.0	57.6

<分析>

○「読むこと」に関する正答率が、神奈川県・全国をともに上回っていた。

▲漢字の問題について、同音異義語についての問題で正答率が低かった。また、全体的に無答率は低いものの、漢字については無答率も高い傾向が見られた。

▲記述式問題について、文字数や使用する語を制限した中で文を作る問題で正答率が低い傾向が見られた。

▲最後の二問において無答率が高く、時間内に問題に取り組む力に課題が見られた。

<改善に向けての手立て>

日々の授業の中で説明や要約をする際に、行数を決めて書き抜きをしたり、友達の意見を言い換えたりする経験を積むことができるように、持続的に指導をしていく。

<算数>

分類	区分	対象問題数 (問)	平均正答率(%)		
			本校	神奈川県 (公立)	全国 (公立)
全体		14	62	67	66.6
学習指導要領の領域	数と計算	7	60.0	63.3	63.2
	量と測定	3	47.4	54.1	52.9
	図形	2	70.0	76.6	76.7
	数量関係	7	64.2	68.7	68.3
評価の観点	算数への関心・意欲・態度	0			
	数学的な考え方	8	57.6	63.0	62.2
	数量や図形についての技能	4	68.7	73.4	73.6
	数量や図形についての知識・理解	2	68.9	69.7	70.1
問題形式	選択式	5	72.0	75.8	75.7
	短答式	5	68.0	72.8	72.8
	記述式	4	43.4	48.5	47.4

<分析>

○答えを直接問われる形式の問題(計算問題を含む)の正答率が高い傾向がみられる。また、全体的に全国平均より無答率が低く、0%の問題も多く見受けられる。

▲複数の図やグラフを見ながら解決する必要がある問題の正答率が低い傾向が見られた。問題文の中から必要な情報見いだしたり、問われていることを正確に認識したりする力に課題があると考えられる。

<改善に向けての手立て>

日々の授業やスキルタイムで活用問題や文章題に触れ、考え方を共有する機会を増やしていく。また、学習に向かう姿勢を育む指導を維持しつつ、他者の意見の言い換えや、自分の考えとの類似点、相違点を見いだす活動を通して、多様な見方をする資質・能力を培う。